

アンコンシャス・バイアスに気づいて 誰もが暮らしやすい世の中に

unconscious bias

子育て

保育園で子どもが
発熱したとき、
**お迎えの
第一候補がママ**
であること。



お母さまが
お迎えにいらっ
しゃいますよね

- ★子育ては母親がするものだと思われている。
- ★男女分け隔てなく育てたいと思っているのに、子どもに「男の子なんだから強くなろう!」という意味合いの言葉を使ってしまっていた。
- ★出産後にパートとして再出発した時、年上のパートで働く女性たちから、「子どもが可哀想」と言われた。
- ★娘や孫に、女の子なんだからピンク色の洋服を着るようとか、お行儀についても細かく言っていた。

仕事

接客は
女の子のほう
がいいからね



飲食店でバイト時代
どれだけ調理場の
希望を出しても
ホールに回された。
理由を聞くと
**「女の子を
表に出したい」**
とのこと…。

- ★女性は子どもが生まれたり仕事をやめると思っている。
- ★「女性は気が利く」「女性は気配りができる」「女性の方が器用で家事が得意」など、一見、褒めているように聞こえるけど…。
- ★女性の賃金が男性の賃金より低くても「仕方がないこと」として感じてしまう。
- ★男性は、パソコンや機械関係に強くて当たり前と思われている。

パリティの
企画運営委員さんに
聞いてみました!
**アンコンシャス・
バイアス**
あるある!

etc.

彼氏いるの?
結婚はまだ?



「彼女(彼氏)はいるの?」「ご結婚はまだ?」

といった何気ない質問は、異性愛を前提とした質問になっていた。[付き合っている人がいる=結婚]というイメージが前提となっていて、正直疲れる。

- ★夫が活躍できたのは「内助の功」と褒められたが、非常に屈辱的だった。これは夫が自分で頑張ったことであって、私には関係ない。
- ★飲み会の席で大皿から取り分けたり、自然に周りのオーダーを取りまとめたりしていると、「女子力が高いですね!」と悪気なく言われることがある。「いやいや、人間力が高いのですよ〜」と流すように返している。
- ★大相撲の土俵や入山の「女人禁制」など、総じて「伝統を守る」の名の下にジェンダー・バイアスが正当化されている。

家族

長男なん
だから
面倒みてね



**長男だから
親の面倒をみるのが
当たり前だと思われている。**

- ★男はきちんと家族を守るべき! 男は子どもと妻を経済的、心理的に守るものと思われていることに疲れを感じる。
- ★家事は大した仕事でなく、家にいる妻・母親は毎日出歩いて遊んでいると思われているようだ。
- ★『家制度』はなくなったはずなのに、「うちの嫁が」という言葉を聞くと、「嫁」は「夫の家に入る」意味を連想させる。その昔、姑に連れられて夫の実家の周りをあいさつ回りする際「うちの嫁です」と言われた。今でも「〇〇家に嫁ぐ」や「お嬢さんを嫁に下さい」など、テレビドラマなどで使われるがモヤモヤ感がある。
- ★留守番時の食事は、兄もいるのに、いつも女の子だからといって私に任されていたのが不満。

アンコンシャス・
バイアスって
なんのこと?



「アンコンシャス・バイアス」という言葉を耳にすることが増えてきました。誰の中にもある無意識の偏見や思い込みに気づき、相手を傷つけたりネガティブな影響を及ぼしてしまわないように、自分自身と向き合うことの大切さを考えてみます。

**アンコンシャス・
バイアスとは**

例えば、血液型で相手の性格を決めつけたり、権威のある人の言うことは絶対正しいと思ったり。私たちが、必ずしも正しいとはいえない認識をまるで常識であるかのようにとらえ、発言したり振る舞ったりしてしまう傾向があります。無意識のうち「これが当然」「普通はこうだ」といった思い込みを持ち、その考えを相手にも押しつけたり、「だからこうに違いない」と決めつけたりする原因になっているのが、**無意識の偏見**、いわゆるアンコンシャス・バイアスといわれるものです。

たしがちなので、注意が必要なのです。とくに、性別役割分担意識が強いといわれる日本では、ジェンダー(役割の違い等で生まれる社会的な性別)にもとづくアンコンシャス・バイアスが数多く存在しています。「男は仕事で女は家事・育児」「男のくせに泣くんじゃなく」「お茶出しは女性社員の役目」など、これらの考え方はすべてアンコンシャス・バイアスです。なぜなら、家事・育児をするのは夫でも構わないし、男性だから泣いてはいけないという根拠もありません。会社でも家庭でも、お茶は必要だと感じた人が男女関係なく淹れればいいのではないのでしょうか。

日本労働組合総連合会が2020年に行った調査によると、「親が単身赴任中」と聞いて父親の方を想像した人は66.3%にもなりました(5万871人中)。こうした思い込みに気づかないでいると、「母親なのに単身赴任?子どもが可哀想。旦那さんも大変ね」といった発言を不用意にしてしまい、その母親や家族に不快な思いをさせてしまう可能性もあります。もちろんこれは、外で働くのは男性、育児をするのは女性という思い込みからくるアンコンシャス・バイアスです。